

子供が遊びを通じて楽しみながら苦手な感覚を軽減し 発達障害児の発達を支援する実践研修の効果

平成29年度 26回 704人参加 (保育士・幼稚園教諭、障害児通所支援事業所及び市町村の職員等)

研修直後

感覚面に配慮した支援への意識の変化

研修前 感覚面に配慮してなかった方 26.0%



研修後 感覚面に配慮した支援に取り組みたい 98.1%

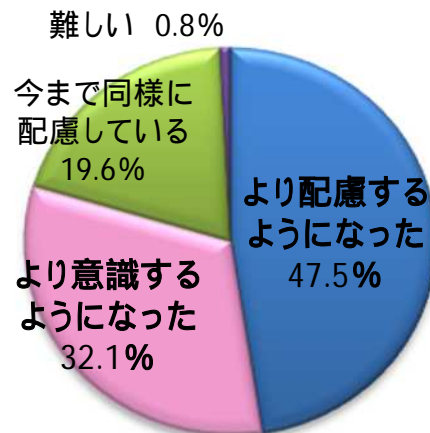
研修で初めて知った内容

- ・感覚特性に応じた遊び方と工夫 80.4%
- ・感覚特性の違いによる配慮の仕方 46.1%
- ・感覚特性の違いによる日常生活への影響 31.6%

回答数620人 / 受講者数704人(回収率88.1%)

研修3か月後

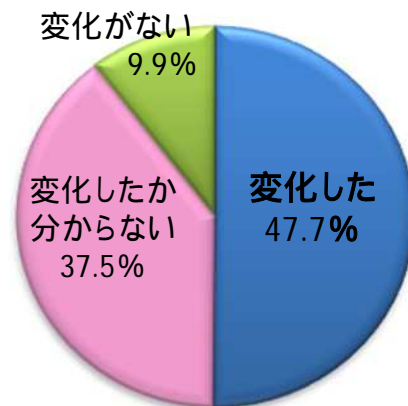
感覚の受け取り方の偏りへの配慮



具体的事例

- ・事前に音の出るタイミングと場所を知らせることでパニックにならなくなった
- ・突然、触られるのが苦手な子供に対して、教室の席を一番後ろにする配慮をした

感覚面に配慮した結果による子供の行動の変化



具体的事例

- ・平均台遊びを取り入れることで、バランス感覚が良くなり、椅子に座って工作が出来るようになった
- ・友達を強く叩いてしまう子供に対して、ボール遊びの中で、力加減を教えたことにより、友達と仲良く遊べるようになった
- ・砂場で遊べなかった子供に対して、場所を変えて砂の型はめ遊びをしたことで、友達と砂場遊びが出来るようになった

回答数368人 / 受講者数704人(回収率52.3%)



揺れや身体の傾き、力加減を体験している様子



感覚の特性に配慮した遊び方を学ぶ研修の様子